月報私学

2025
8
VOL.332

園庭を囲むように建つ保育室棟は長いバルコニーで繋がっており、室内に入ると柔らかい屋久島地杉フローリングで木の温もりいっぱいの園舎です。またエントランスホールの２本の大きな柱は抱きついたり、かくれんぼしたりとこどもたちのお気に入り。天井の「トラス構造」が印象的な遊戯室は、ここで過ごしたこどもたちの共通の記憶となるように…との思いが込められています。

写真提供　学校法人昌平黌　いわき短期大学附属幼稚園（福島県いわき市）

CONTENTS

- 2025年度　若手･女性研究者奨励金　贈呈式 …… 2
- 2026年度　学術研究振興資金の概要 …… 5
- 2026年度　若手･女性研究者奨励金の概要 …… 6
- 若手･女性研究者奨励金　寄付金付き自動販売機の設置にご協力ください …… 7
- 連載㉙　魅力あふれる学校づくりを目指して　こころが動く　笑顔があふれる毎日 …… 8
- 短時間労働加入者にかかるQ&A …… 9
- 年金改正法が６月20日に公布されました …… 10
- 令和７年度　特定健康診査の結果報告にご協力ください …… 12
- 「資格取得報告書」等を提出する際の注意点／Pep Up(ペップアップ)を利用したウォーキングラリーイベント開催のお知らせ …… 13
- INFORMATION …… 14
- 宿泊施設のご案内／融資事業のご案内 …… 16

日本私立学校振興・共済事業団

助成業務

連載79 魅力あふれる学校づくりを目指して

こころが動く　笑顔があふれる毎日

学校法人昌平黌　いわき短期大学附属幼稚園　園長　齋藤　紀子

◉豊かな体験が生まれる新園舎

近年、こどもたちの遊び方や集団での関わりに大きな変化がみられるようになりました。デジタル化や子育て環境の多様化などを背景に、こども同士の関係づくりや遊びの質も変わりつつあると感じます。こうした時代の変化の中にあって、当園は「遊びの中で育てる」ことの本質を改めて問い直しながら、教育実践に取り組んでいます。

２０２３年完成の新園舎は、こども同士でさまざまな体験が得られる造りとなっています。大きな園庭を囲むようにL字型に保育室棟が建ち、広い廊下は、こどもたちがさまざまな素材で夢中になって組み立てる「作品」を、保育室を飛び出しどこまでも伸ばすことができます。向かいの遊戯室棟までは長いバルコニーで繋がり、軒の深いインナーテラスは園庭の様子や天気の変化を身近に感じられる絶好の場所です。激しい雨音を聞きながら、「これじゃお外にいけないね」と会話が生まれ、いわきでは珍しく大粒の雪が降った時には、図らずも全クラスがここに集まり、空から落ちてくる雪を全身で感じる共通体験となりました。また3、4、5歳児が互いの存在を意識しながら日々を過ごしていて、年長児が年少児のそばに自然と寄り添い遊びを支える姿が見られます。このようなまなざしのある関係は、年齢を超えた協同性や信頼感を育む土台となっています。他にも室内にはＤＥＮ（小部屋）や小上がりなどの隠れ家的なスペースが所々にあり、自由な中にも安心してそれぞれの遊びが展開されています。

◉環境は、もう一人の保育者

こどもにとって環境は「もう一人の保育者」ともいわれます。どんな空間で、どんな素材と出会い、誰と関わるのかで、遊びは大きく変わってきます。当園ではこどもの興味・関心と発達時期に合った環境を意識して、遊びの質を高める工夫を重ねています。

3歳児は粘土や砂等、感触を楽しむことで集中力が、大好きな「ごっこ遊び」では、言葉や人との関わりが育ちます。探索意欲を引き出す素材やじっくり遊べる空間づくりを意識し、こどもの「やってみたい」を見逃さず、共に驚き、楽しむことを大切にしています。4歳児は「ごっこ遊び」の世界をより豊かに展開するようになり、さまざまな素材や道具に触れながら遊びに必要なものを作り出します。こどものイメージに沿った環境を作り、援助していくことで「自分たちでできた！」の達成感に繋げています。5歳になるとこれまでの経験から素材の特性を理解し、自分たちで選んで遊びに必要なものや場を創るようになります。目的を持って継続的に遊びを発展させていこうとするため、十分な素材と時間、そして「見守られながら挑戦できる」空間を整えることを意識しています。

環境はこどもに語りかけ、育ちを支える存在です。「やってみたい！」が実現する経験を積み上げていくことで、学びに向かう力を育みます。

◉大学との連携～次世代の可能性を開く～

当園は、いわき短期大学の附属幼稚園であり、こどもたちの育ちと保育者を目指す学生の学びが交わる場所です。大学の教育や研究と連携をしながら理論と実践を繋いでいます。

園庭には発見がいっぱい

本法人の「次世代育成実践・研究センター」との連携では、大学教員による保護者向けの教育講演会を実施し、子育てにおける最新の知見を伝える機会となりました。また、当センターの特別支援教育分野の教員と連携し、訪問指導を通し保育者とのケース検討を行う体制も整っています。さらに昨年は、大学教授、ゼミ生、園教員が一体となり、「親子で楽しむお話と音楽の会」を開催しました。学生には実践力を磨く大切なフィールドとなり、私たち教員にとっても、「豊かな感性を育む」ことについて、さまざまな思いや意見が交わる学びの機会となりました。このように、養成校の附属幼稚園が果たす役割は、単なる実習の場にとどまらず、次世代の可能性を開くために、「モデルとなる実践の発信」、「保育の質を問い続ける共育の場」であることと捉え、取り組んでいます。

こうした日々の保育の根底には、私たちが大切にしている「こころが動く　笑顔があふれる毎日」であることへの思いがあります。こどもが心から夢中になれる遊びや体験に出会い、自分を表現し、仲間と繋がる中で見せてくれる笑顔、それこそが私たちがもっとも大切にしたい光景です。

齋藤 紀子（さいとう のりこ）
令和6年4月にいわき短期大学附属幼稚園園長に就任し、現在に至る。